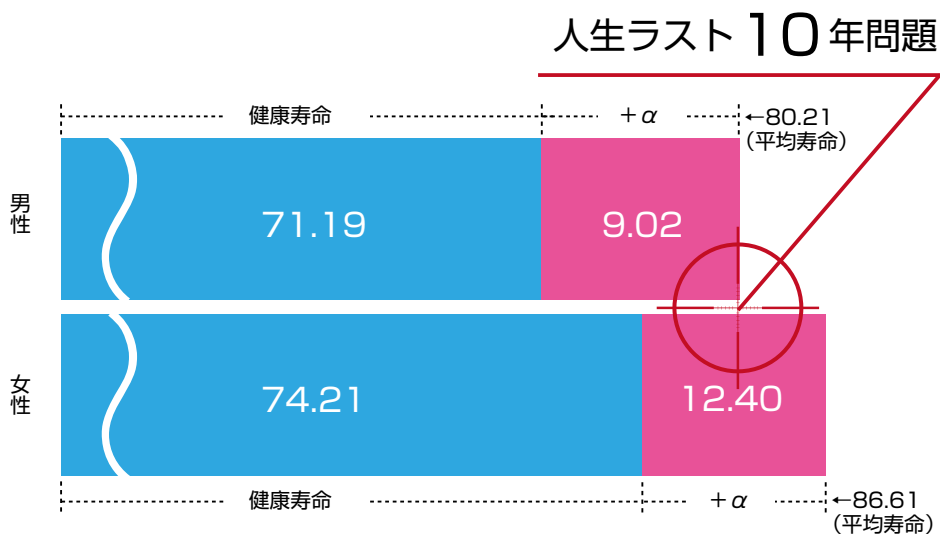


「平均寿命から健康寿命を引いた
医療や介護の支援が必要となる
人生最後の時期に待ち構える 10 年間で」

世界でもトップクラスの平均寿命の日本ですが、自立して生活できる期間である健康寿命との間にはおよそ 10 年の差があります。人生最期の時期に待ち構える医療や介護の支援が必要になるこの 10 年の期間を人生ラスト 10 年問題と言います。少子高齢社会のわたしたちの国が解決を迫られている喫緊の課題の一つです。

健康寿命が伸びても、同じように平均寿命も伸びているから、
10 年という期間は縮まることがないマンネン。



平均寿命と健康寿命

平均寿命と健康寿命の差である「10 年間」は日常生活に制限が生じる不健康な期間です。その人の生活だけでなく、周囲や社会にもさまざまな影響が生じます。